

2020年合格目標

改正民法の出題を先取り体験！

直近の「司法試験」から読み解く！

【問題編】

(YouTubeチャンネル「資格予備校講師・姫野寛之」企画)

資格予備校講師

姫野 寛之

改正民法の出題を先取り体験！
直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

1 本動画の趣旨

令和2年8月16日、令和2年度司法試験の短答式試験が実施された。

司法書士試験と司法試験は、いずれも法務省が所管する国家試験であるところ、令和2年度司法試験の短答式試験における民法の問題は、法務省が民法（債権関係・相続関係）の改正に基づき初めて出題するものである点で、令和2年度司法書士試験の前哨戦的な意味合い等の重要な意義を有すると考えられる。

そこで、本動画においては、令和2年度司法書士試験の民法の出題への対策として、令和2年度司法試験の短答式試験における民法の出題（民法（債権関係・相続関係）の改正に関するものに限る。）の演習・解説を行うこととする。

なお、令和2年度司法試験の短答式試験における民法の出題（民法（債権関係・相続関係）の改正に関するものに限る。）のうち、予備試験と重複するものについては、資格の予備校 TAC が実施する直前公開模試の特典動画として提供しているため、ここでは取り扱わない。

[凡例]

司 R2-3-ア：令和2年度司法試験の短答式試験第3問ア

2 令和2年度司法試験の短答式試験における民法の出題

(1) 無権代理

Aは、Bの代理人と称して、Cとの間でBの所有する土地をCに売却する旨の売買契約を締結したが、実際にはその契約を締結する代理権を有していなかった。

代理権を有しないことを知らないことにつきCに過失がある場合、Aは、自己に代理権がないことを知っていたときであっても、Cに対する無権代理人の責任を負わない。【司 R2-4-ウ】

(2) 売買契約

AとBは、Aが所有する骨董品甲をBに100万円で購入する旨の売買契約を締結した。この事例に関して、次の①から⑤までの設問に解答せよ。

① 売買契約の締結後、Bが代金100万円を支払ったが、引渡期日前に、AがBに対して甲を引き渡すつもりは全くないと告げ、Bの働きかけにもかかわらず翻意しないときは、Bは、引渡期日の到来を待つことなく、Aに対し、債務の履行に代わる損害の賠償を請求することができる。【司 R2-15-ア】

② 売買契約の締結の前日に甲が焼失していたときは、当該売買契約は効力を生じない。【司 R2-15-イ】

③ 売買契約の締結後、Bが代金100万円を支払ったが、Aが甲をBに引き渡す前に、甲がBの責めに帰すべき事由により焼失した場合において、Aが甲の焼失による損害をてん補するために支払われる損害保険金70万円を得たときは、Bは、Aに対し、70万円の支払を請求することができる。【司 R2-15-ウ】

- ④ 売買契約の締結後、Aが甲をBに引き渡す前に、甲が第三者の失火により焼失したときは、Bの代金支払債務は当然に消滅する。【司 R2-15-エ】

- ⑤ Aが引渡期日に甲の引渡しの提供をしたところ、Bが正当な理由なく受領を拒絶したため、Aの下で甲を保管中に、Aの重過失により甲が滅失したときは、Bは、代金の支払を拒むことができない。【司 R2-15-オ】

(3) AがB銀行に預金口座を開設し、金銭を預け入れた事例

AはB銀行に預金口座を開設し、金銭を預け入れた。この事例に関して、次の①及び②の設問に解答せよ。

- ① AがB銀行に対して有する預金債権について、譲渡はできない旨の特約がされていた場合、AがGとの間で、その預金債権をGに譲渡する契約をしても、Gが特約について悪意又は重過失であったときは、その譲渡は効力を生じない。【司 R2-18-ウ】

- ② HがAに対する代金債務の全額をA H間の合意によりB銀行のAの預金口座への振込みによって支払った場合、その債務は、Hの振込みによってAがB銀行に対して同額の預金の払戻しを請求する権利を取得した時に、弁済により消滅する。【司 R2-18-オ】

(4) 弁済による代位

債権者が故意に担保を減少させたとしても、そのことについて取引上の社会通念に照らして合理的な理由がある場合、保証人は、その担保の減少に基づく免責を主張することはできない。【司 R2-19-エ】

改正民法の出題を先取り体験！

直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

(5) 法定利率及び約定利率

法定利率及び約定利率に関して、次の①から④までの設問に解答せよ。

- ① 利息を生ずべき債権について約定利率の定めがないときは、その利率は、最初に利息が生じた時点における法定利率による。【司 R2-21-ア】

- ② 法定利率の割合は、3年を一期とするその期ごとに見直され、必ず変更される。【司 R2-21-イ】

- ③ 将来において負担すべき費用についての損害賠償の額を定める場合、その費用を負担すべき時までの利息相当額を法定利率により控除することはできない。【司 R2-21-ウ】

- ④ 金銭消費貸借契約の利息について法定利率を超える約定利率の定めがある場合、返済を遅滞した借主は、元本及び返済期日までの約定利率の割合による利息に加えて、当該金銭消費貸借契約を締結した時点における法定利率の割合による遅延損害金を返済期日の翌日から支払済みまで支払わなければならない。【司 R2-21-エ】

(6) 契約の成立

契約の成立に関して、次の①から④までの設問に解答せよ。

- ① AがBに対し、承諾の期間を申込みから1週間と定めて撤回の権利の留保なく契約の申込みをし、その2日後に申込みを撤回したが、Bは申込みから5日後に承諾した。【司 R2-22-7】

- ② Aが対話中にその終了後も契約の申込みが効力を失わない旨を表示せずに対話者であるBに対して契約の申込みをしたところ、Bは対話終了後の翌日に承諾した。【司 R2-22-4】

- ③ Bは、Aによる契約の申込みに対し、承諾の通知を発した後に死亡したが、Aは、その承諾の通知の到達前にB死亡の事実を知っていた。【司 R2-22-7】

- ④ AがBに対して契約の申込みの通知を発した後に死亡したが、Aは自らが死亡したとすればその申込みは効力を有しない旨の意思を表示しておらず、BはA死亡の事実を知らずに承諾した。【司 R2-22-エ】

改正民法の出題を先取り体験！

直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

(7) A B間においてAの所有する中古の時計甲の売買契約が締結された場合

上記場合に関して、次の①から③までの設問に解答せよ。

- ① Bが、Eとの間で、売買契約における買主たる地位をEに譲渡する旨の合意をした場合、Aの承諾の有無にかかわらず、買主たる地位はEに移転する。【司 R2-23-ウ】

- ② 売買契約において契約の締結時には出生していなかったFに甲の所有権を取得させることが定められた場合、売買契約は無効である。【司 R2-23-エ】

- ③ 売買契約において第三者Gに甲の所有権を取得させることが定められ、Gの受益の意思表示がされた後、Aが甲の引渡しを遅滞した場合、Bは、Gの承諾を得なければ、売買契約を解除することができない。【司 R2-23-オ】

(8) 他人の権利の売買

他人の権利の売買に関して、次の①から⑤までの設問に解答せよ。

- ① 売主が他人の権利を取得して買主に移転することができない場合、買主は、契約時にその権利が売主に属しないことを知っていたとしても、それにより損害賠償の請求を妨げられない。【司 R2-24-ア】

- ② 売主が他人の権利を取得して買主に移転することができない場合、そのことについて売主の責めに帰すべき事由が存在しないときであっても、買主は売主に対して損害賠償請求をすることができる。【司 R2-24-イ】

- ③ 売買の目的である権利の一部が他人に属することにより、その権利の一部が買主に移転されず、履行の追完が不能である場合、そのことについて買主の責めに帰すべき事由が存在しないときは、買主は、催告をすることなく、直ちに代金の減額を請求することができる。【司 R2-24-ウ】

- ④ 売主が他人の権利を取得して買主に移転することができない場合、買主は、契約時にその権利が売主に属しないことを知っていたときは、契約を解除することができない。【司 R2-24-エ】

- ⑤ 売主が他人の権利を取得して買主に移転することができない場合、買主は、善意の売主に対しては、当該権利が他人の権利であることを知った時から1年以内にその旨を通知しなければ、損害賠償の請求をすることができない。【司 R2-24-オ】

改正民法の出題を先取り体験！

直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

(9) 委任

委任を解除した者は、その解除の時期にかかわらず、相手方に対する損害賠償責任を負わない。

【司 R2-26-ア】

(10) 不法行為

金銭債権を有する者が、その債務者を負傷させたことにより不法行為に基づく損害賠償債務を負った場合、当該金銭債権を自働債権、損害賠償債権を受働債権とする相殺をもって債務者に対抗することはできない。【司 R2-29-ア】

(11) 遺言の執行

遺言の執行に関して、次の①から③までの設問に解答せよ。

- ① 遺言執行者がある場合には、遺贈の履行は、遺言執行者のみが行うことができ、遺言者の相続人がこれを行うことはできない。【司 R2-34-ウ】

- ② 遺産分割方法の指定として遺産に属する預金債権の全部を相続人の一人に承継させる旨の遺言があったときは、遺言執行者は、遺言者がその遺言に別段の意思を表示した場合を除き、その預金の払戻しを請求することができる。【司 R2-34-エ】

- ③ 遺言執行者は、遺言者がその遺言に別段の意思を表示した場合を除き、やむを得ない事由がなければ、第三者にその任務を行わせることができない。【司 R2-34-オ】

(12) 承継人

承継人に関して、次の①から③までの設問に解答せよ。

- ① 錯誤によって取り消すことができる行為は、錯誤による意思表示をした者の契約上の地位の承継人も、取り消すことができる。【司 R2-36-ア】

- ② 時効の完成猶予の効力は、その事由が生じた当事者の承継人に対しては生じない。【司 R2-36-イ】

- ③ 遺留分権利者の承継人は、遺留分侵害額に相当する金銭の支払を請求することができる。【司 R2-36-オ】

以上

改正民法の出題を先取り体験！
直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

【担当講師】

ひめの ひろゆき
姫野 寛之

資格の予備校TACにおける担当講座

本科生等 基礎総合コース 上級総合本科生
単科 基礎マスター 択一式対策講座【理論編】【実践編】
記述式対策講座 択一予想論点マスター講座 予想論点ファイナルチェック
その他 答練の解説講義

YouTube 資格予備校講師・姫野寛之

<https://bit.ly/2EbLMKb>



ブログ 姫野司法書士試験研究所

<http://hiroyukihimeno.blog42.fc2.com/>



ツイッター

@hiroyukihimeno

<https://twitter.com/hiroyukihimeno>



改正民法の出題を先取り体験！
直近の「司法試験」から読み解く！【問題編】

【MEMO】